新型コロナウイルス感染症を乗り越えて

元 鳥取県西部総合事務所
所長　吉　村　文　宏

「検査結果、陽性がでました」。

それは２０２０年４月１８日、西部地区で初の新型コロナウイルス感染者を確認したという米子保健所からの一報でした。「ついに西部でも」というのがその時の心境でした。

それ以降、第１波、第２波と続く荒波に飲み込まれ、西部総合事務所も保健所応援のため患者移送や検体搬送、ドライブスルー対応などに取り掛かりました。

さらに感染の拡大に伴い、パチンコ店への休業要請（２０２０年５月）に始まり、飲食店等の巡回指導・宿泊療養施設の開設運営・西部総合事務所PCR検査センター開設（いずれも２０２１年１月～)、医療従事者等ワクチン接種（２０２１年５月～６月）などを実施しました。加えて、「ワンストップ相談窓口」を開設し、厳しい経営状況となった事業者支援にも取り組みました。

特に、オミクロン株が急拡大した２０２２年１月、コロナ対応もPCR検査調整、入院調整、在宅療養者支援などが急増しました。それまでは応援職員が毎日交代する「日替わり応援」でしたが、業務効率を高める観点から、この時思い切って「調整業務担当の応援職員は固定」方式に改めました。

この時、事務所の局長会議を開催し、私から「これは災害対応と同じであり、西部地区の職員の総力をあげて対応」をお願いしました。

保健所の職員に加え、クラスターや施設関係の対策チーム、さらに応援職員が連携して取り組んでいただいたことにより、大きな波が乗り超えられました。

県民の命と健康を守るため奮闘いただいた関係所属および職員の皆様に改めて感謝申し上げます。

コロナ禍により私たちの社会生活も大きく変わりました。

「リモート化」、「密を避ける」ことも鳥取県にとっては悪いことばかりとは限りません。鳥取県への移住者は３０代以下の世帯を中心に毎年増加し、２０２２年の鳥取県の出生数は７年ぶりに増加に転じたと推計されています。「豊かな自然」などがあふれる鳥取県には、コロナ後の未来があります。

令和５年には西部総合事務所新棟が竣工し、米子保健所、県民福祉局も糀町の新しい環境で業務が始まります。

西部総合事務所は、新たな歴史のスタートを迎え、今まで以上に職員一丸となり、更なる地域の活性化にまい進して参ります。

新型コロナ対応と東福原庁舎

鳥取県西部総合事務所
米子保健所長　藤　井　秀　樹

２０２０年の年明け、中国で原因不明の重症肺炎が発生しているとの情報で動きだした新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）との付き合いは、思いのほか長くなり３年余りにも及びましたが、２０２３年春、感染症法上の類型が変更になり、大きな一つの区切りを迎えました。

この間、何度となく感染の波を繰り返し、多くの皆さんの協力のもと乗り越えてきましたが、２０２１年の第４波や第５波では都市部において、適切な医療提供を受けることなく在宅療養を続けざるを得ないような事態が発生したことは大きなショックでした。このような事態の発生は絶対に避けたいと誓ったことを思い出すとともに、避ける手立てはなかったのか、次の新たな感染症に備えるためにも、国全体でのしっかりした検証が必要だと、今、改めて感じています。

当地の状況を振りかえってみると、第５波までは人口当たりの感染者数が全国平均を大きく下回る状況で推移し、増加しそうになると県民への感染対策徹底のメッセージやクラスター施設への個別指導など、様々な対策により、増減を繰り返しつつも大きな増加は食い止められました。

当地では医療関係者の協力のもと、入院病床、診療・検査医療機関、検査体制などは全国的にも高いレベルで確保が出来ていたものの、流行の波が来るたびに正念場を迎え、職員とともに厳しく辛い日々でしたが、医療関係者の協力とともに、陽性者が減少に転じたことで何とか乗り越えることが出来ました。ただ、第７波、第８波では全国並み、あるいはそれ以上の波となりましたが、新型コロナが軽症化したことと合わせ、様々なシステム変更や県庁全体での継続した、手厚い支援により、なんとか乗り越えることが出来たのではないかと考えています。改めて、多くの皆さんのご支援、職員の皆さんの頑張りに深く感謝を申し上げます。

この間、鳥取県西部地区における新型コロナへの行政面での対応の拠点となった西部総合事務所東福原庁舎は奇しくも同じ２０２３年冬、その役割を終え、西部地区における保健、福祉、衛生行政の拠点としての５４年余りに及ぶ営みは、多くの職員の思い出とともに、その幕を閉じることになります。そして、米子保健所及び県民福祉局の該当課は、糀町庁舎へ移転する予定です。

人も建物も、いずれはその役割を次の世代にバトンパスしていくわけですが、そんな大きな節目に、新型コロナが発生したことも何かの巡り合わせなのでしょう。庁舎の場所が変わっても、この地で暮らす人々に、少しでもお役に立つ組織であり続けることを願っています。

半世紀に及ぶ米子保健所の思い出

鳥取県社会福祉協議会
会長　藤　井　喜　臣

米川沿いの米子保健所が西部総合事務所に移転するとのことです。

私自身の鳥取県庁生活のスタートが、米子保健所であり、米川沿いの建物にはとても懐かしく、親しみがあります。

建設の頃は、高校生であり米川土手の道路は私にとって通学路でありました。そして、今からおよそ半世紀前に社会人として、米子保健所で働き始めました。今、新型コロナで大変な苦労をなされた方々には申し訳ない話でありますが、とてもアットホームな良い職場環境でした。わからないことがあれば、丁寧に教えていただけるし、昼休みには、あちこちで将棋をしたり、囲碁をしたり、お茶会があったり、また、当時は２０代～３０代の若手職員が多く、日頃の職場での行事も多く、年に一度は、泊りがけの親睦旅行、冬には大山へのスキーツアーなど楽しい思い出があります。

ただ、職場でのマナー、遅刻の厳禁、上下関係などは厳しく教えられた記憶があります。

その後私は、福祉保健部長、副知事を勤め、米子保健所には幾度となく出入りしましたが、心の中でいつも申し訳ないと思っていたのが、執務室の狭さです（組織改編により、狭くしたことです。）。今回の移転で執務室が少しでも広がることを願っております。

なお、末筆に、私の妻は保健師（当時は保健婦と言っていましたが）であり、妻も最初の勤務地が米子保健所であり、夫婦ともに今の建物には、思い出深いものがあることを申し添えます。

さて末筆で恐縮でありますが、私たち夫婦は６５歳以上でもあり、コロナワクチン接種を第１回から第４回まできちんと受け、感染予防もしていたつもりですが、昨年１２月中旬にどこからともなく、私がまずオミクロン株に感染し、夫婦とも発症してしまいました。幸いに３８度台の発熱で軽症であり、自宅療養をしていましたが、居住地の管轄の鳥取市保健所から、当日の夜２１時ごろに、療養にあたっての注意事項等の電話をいただくとともに、パルオキシメーターのお届けをいただきました。おかげで、隔離期間中に無事回復し、復帰後の職場での感染拡大もありませんでした。保健所の皆様方のご苦労の一端がよくわかり、感謝する次第でした。ありがとうございました。

東福原庁舎の思い出

元 鳥取県西部総合事務所
福祉保健局長　古　都　憲　孝

私が東福原庁舎でお世話になったのは、まだ組織が福祉保健局の時でありまして、２度に渡りそれぞれ４年間勤務させていただきました。今回、このような機会を与えてくださいましたので、あまり語られていないことを含めて当時のことを少し遠慮気味に書かせていただきたいと思います。

最初にお世話になった４年間は、５０歳になった平成２３年度からでして、福祉保健部の新任者研修で若い方に囲まれて少々気恥ずかしい思いをしたことを覚えています。

東日本大震災の関係業務が優先され、原子力防災もクローズアップされました。また、鳥取県独自の「支え愛」が活発化したのもこの時期ですし、伸びのびトーク（知事をはじめとする県の幹部職員が地域に出向き、地域の課題について県民と直接意見交換するもの）に縮こまりながら参加したことも結構多かったですよ。また、私が培ってきたことと局職員の仕事のやり方の違いや、人間関係に戸惑ったことも少なくありませんでしたねぇ。

東福原庁舎の第一印象は、「トイレが汚い」でした。男子トイレの便器が真っ黄色でしたから。予算化されていた翌年度の清掃管理委託契約ができていなかったため、４月から次の議会で承認されるまでの平日、朝５時半から別館を含めた全てのトイレ掃除、休日には掃き掃除を上司の責任としてさせていただきました。契約の目処が立った頃になって２名の女子職員が女子トイレの掃除を協力してくれて、６時半出動に緩和されましたが、なんとなく情けない気分でおりました。ちなみに、後年度に異動してきた係長が、「使用したら１日半はトイレ不可」の強力洗剤を入手・休日施工で便器が白くなった時は本当にありがたかった一方で、変な孤独感を感じたことを思い出します。

さらに、この４年間は敷地内へのゴミ不法投棄、外壁への卵投げつけなどの被害が多発し、極めつきが２４年３月の放火事件です。窓ガラスに開けた穴から給油ポンプのようなもので灯油をまいて火をつけたらしいのですが、未明に電話を受けて飛んで行きました。幸い、警備会社と消防署の迅速な対応で大事には至りませんでしたが、警察との付き合いが１年以上続きました。当日、ソウル行きを予定していた総合事務所長が空港に行く前に来られて、朝早くから県上層部への報告内容をチェックしていただいたことを覚えています。

２度目の時は、大山開山１３００年祭や公立・公的病院の再検証などいろいろありましたが、やはり新型コロナです。保健所長の的確な指示・対応、総合事務所長に万全の協力体制を敷いていただいたこと、他所属の職員の多大な協力はもとより、市町村の方にも助けていただきました。

通算で８年間、少数職種の重要性を含めて福祉保健の専門職に対する評価をもっと高くすべきと思っておりましたし、効率だけでは語ることのできない業務の特殊性を当局には訴えてきたつもりです。残念ながら、毎年、組織改正の的となり、中でも日野福祉保健局の２４年度廃止、２５年度から米子に日野郡担当設置という組織改正には納得のいかない思いタラタラでした。ただ、令和３年度に保健所が独立したことはとても実情を踏まえた意義のある改正だったと思います。

外部とのトラブルはたくさんありましたし、職員の失敗もいっぱいありました。建物の老朽化による水漏れや雨漏り、雪が降れば総動員で雪かき作業を行ったものです。遠距離通勤者もたくさんおられました、大変だったと思います。以前から福祉保健局の糀町庁舎への移転というのは幾度か話に出ておりましたが、設備や器具の関係、福祉相談やＨＩＶ検査などデリケートな部分が障壁となって実現しなかったように記憶しています。

新しい場所に移転されましたら、そうした懸念が払拭され、県民のみなさんに親しまれ、愛される組織と職員になられるようにお祈りしています。引っ越しでくれぐれもお疲れを出されませんように。